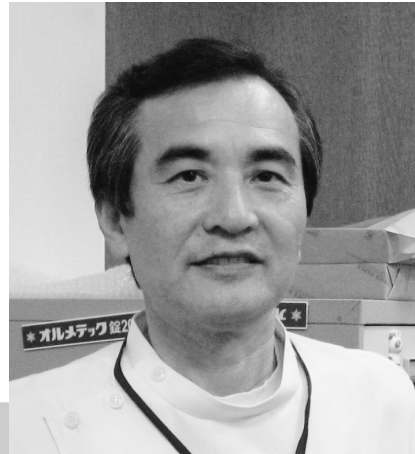


インタビュー
コーナー

私の元気の素は、人生
何が起るかわからない
事に対する好奇心です。



沖縄県離島医療組合 公立久米島病院 院長
村田 謙二 先生

P R O F I L E

- 昭和25年4月 今帰仁村生まれ
- 昭和44年3月 那覇高校卒業
- 昭和52年3月 広島大学医学部卒業
卒業後母校の麻酔科に入局、その後
大学病院、県立広島病院、広島市安
佐市民病院、厚生連広島総合病院な
どの関連病院で勤務
- 昭和60年8月 約2年間米国エール大学医学部麻酔
科へ留学
- 平成6年8月 沖縄へ帰省。県立南部病院麻酔科部長
- 平成18年4月 県立南部医療センター・こども医療
センター麻酔科部長
- 平成20年4月 公立久米島病院院長 現在に至る

【学会など】

- 日本麻酔学会 指導医
- 日本ペインクリニック学会 専門医
- 日本救急医学会 専門医

久米島病院に赴任して1ヶ月、まだ日も浅い
のですが、現在までの感想をお聞かせ下さい。

○村田先生：院長職、管理職というのは初めての
経験ですが、やってみて本当に大変だと感じて
います。というのは、ありとあらゆる困った
問題が、大小起こるわけですが、それをすべて
院長が判断して処理しなければいけないという
ところです。

○玉井先生：管理職でいらっしゃいますからね。

○村田先生：そうですね。

前に務めていた県立南部医療センター・こども
医療センターから、ここ久米島病院に赴任さ
れてきたわけですが、県立南部医療センター・こ
ども医療センターから久米島病院へ赴任するに
あたって何か期するものがあったのでしょうか。

○村田先生：実は赴任する前に、前院長の當銘
正彦先生が中心になり、久米島病院の今後のあ
り方が検討されていて、病院が置かれている状
況をかなり詳細に分析されていて、それをかい
つまんで読んでみると、この久米島病院を開設
するにあたって、島民の9割の人たちが署名
し、病院を作って欲しいという要望で出来たとい
うことですが、実は、現在の病院は、あまり
島民に利用されていないという事が、保険診療
の分析からでてきています。例えば、外来でい
うと、大体3分の1くらいしか久米島病院にお

金としては使われていない。3分の1は本島で
使われている。

○玉井先生：本島まで行っているのですか？

○村田先生：はい。久米島は那覇から近く、子
供達が本島に住んでいる人たちが多いため、そこ
へ行きがてら外来へ診療に行くパターンも結構
あるようです。

それから、この島には今現在、2つの診療所があるのですが、残りの3分の1が使われています。ということは、久米島病院には医師が7人いるんですが、その2人の開業医の先生方と同じくらいしか利用されていないということですね。

それから、入院患者にしても、保険診療で言うと2割くらいしか入院費は久米島ではおいてなくて、残りの8割は本島になっています。

○玉井先生：久米島病院には何床あるんですか？

○村田先生：40床ありますが、現状でいえば、外科と整形をある程度できる医師が1人、小児科医が1人、4人は内科系で、総合内科が2人、総合診療が2人、という体制で、本格的な手術が出来ない。という意味では、手術をするためには本島に行かなくてはいけないということを考えると、どうしても使われる入院費というのは少なくなるというのはわかるんですが、それにしても2割。病床利用率も70%を越したことがないんです。

○玉井先生：今、院内をみてきたんですが、すごく大きくて立派な感じがしました。

○村田先生：外来に関しては、年々収入が増え、そう問題はありません。普通病院では外来が3割、入院が7割くらい稼ぐのが形態ですけど、この病院は、外来と入院が同じ程度しか稼げていない。ということは、やはり入院であまり稼げていないという財政上の問題がある。まず、これを何とかしないといけない。

○玉井先生：村田先生、先ほど手術というお話が出ましたが、手術をするということであれば、先生は麻酔科の専門でいらっしゃるの、やろうと思えば出来る素地そのものはあるんですね？

○村田先生：大きな問題が、輸血です。この病院くらいの規模だと血液センターが血液を常備することを認めてくれない。出血して、輸血をしないといけないかもしれない可能性の手術はどうしても出来ない。

それから、今までは麻酔科医がいなかったもの、ですから、当然手術は出来ない。

ですけど、せっかく麻酔科医も来て、外科・整形もある程度出来る医師がいるので、局麻、ブロックで出来る簡単な手術は、本島に行かなくてもこの病院で、島で出来るというのを目指すべきではないかなと思います。今、それを検討しているところです。

村田先生は3月まで県医師会の理事としてお仕事をされていましたが、その事が現在の院長という職務に良い影響がありますか？

○村田先生：それは非常にありますね。私は、理事としての2年間でなければ、この院長職を引き受けなかったんじゃないかなと思います。それまではずっと麻酔科専門としてやってきましたから、医師会の理事になって初めて、医療全般に関わることを幅広く勉強することができて、そういう意味で、医師会の理事の2年間でなければ、現在の院長としての私はないかなというくらいに大きな収穫になっています。

○玉井先生：これは、ここに赴任するにあたっての、ひとつのモチベーションになったということですね。

○村田先生：はい、そうですね。

今日は、久米島に寄らせていただいて、すごく自然が美しい島であると感じましたが、久米島の地でやってみたいこと、抱負などありましたらお聞かせ下さい。

○村田先生：実は、この病院に来て、もう一つ気づいたことは、癌の患者さんがかなり症状が進んでから始めて受診するということが結構あるんですね。

ちょうど、特定健診も始まるので、今度特定健診の説明会を公民館11箇所で、町の主催であるんですが、それに同行して、直接、島民の方に、日頃から病院を使って、1年にいっぺんくらいは徹底的に検査をして、自分の健康を守ることが長寿につながるということを是非訴えたいと思います。幸いにも中部病院から来た若い先生方も、地域に出て、1人はスポーツ医学を広めたいという志を持っている医師がいて、

それから小児医療の質をもっと深めたいという医師も来てくれて、そういう意味では、みんな地域にもっと出て、島民の健康に関わりたいという熱い想いをもっている若者も多いので、これからやりがいのある病院になるかなと期待しています。

○玉井先生：ここに赴任されている先生は、若い先生が多いんですか？

○村田先生：そうですね。副院長が、卒後10年で、それ以外は卒後4～6年です。

フェリーに乗ってこの地にやってきて、自然が豊富なんですが、村田先生の健康の秘訣、座右の銘などありますか？ それと、村田先生は無類の囲碁好きと聞いていますが、囲碁仲間は増えそうですか？

○村田先生：実は、本島で作った囲碁仲間の中に、久米島出身の方が一人いて、すでにここにくる前に紹介してもらっていて、1回、有段者が集まる碁会に招待してもらいました。それから、その中でも、恐らく、島で一番強いだろうという方と、この部屋で2回対局しましたけれど、1勝4敗です。大きな目標が出来たなと思っています。

○玉井先生：いろんな意味での幅というのが広がりそうですね。

○村田先生：そうですね。

○玉井先生：ここで、ウォーキングなどはされていますか？

○村田先生：そろそろ始めたいとは思っているんですが、私は、アウトドア派ではないので、健康のためには歩くことと、庭いじりが、まめにやれば体力を使うということがわかったので、それをやろうと思っています。南部医療センターは施設が大きいものですから、普通に仕事していても、階段を使って上り下りをすると、一日1万2千から、多い日は1万5千歩くらい歩いていたので、体重を維持できていたと思うんですが、ここに来て、一日せいぜい5～6千歩でした。これから、ウォーキングをしようと思っています。できれば、せっかくだから、一人

ですのではなくて、島民の方に健康管理を呼びかけて院長と一緒に歩きませんか？というキャンペーンをやってみようかなと。

○玉井先生：久米島病院主催のウォーキング大会みたいなものですか？

○村田先生：例えば、7時から病院前の広場を歩きますよと、ゆんたくでもしながら、一緒にウォーキングしませんかと呼びかけをして、週に2回くらいは歩きましょうということです。

○玉井先生：是非、他の若い先生方も誘うことで、島民が、久米島病院に対する親近感がより高まると思いますね。

○玉井先生：それから、村田先生、今朝のホットな話ですけど、ヘリによる急患搬送があったといことを聞いたんですけども。

○村田先生：はい。実は離島の救急医療をやることに関して、久米島病院で一番助かっていることは、U-PITのヘリコプターによる患者の搬送なんですね。年間、80～90名くらい、この病院では治療できない患者さんを本島に送っているんですが、過去には自衛隊にお願いしているケースが多かったのですが、現在は、80%くらいはU-PITのヘリコプターを利用しています。

ドクターとナースが添乗しており、しかもお願いしてから40分くらいで到着してくれるので、非常に助かっています。

○玉井先生：そうすると、若いドクターが、こういうところに赴任するのも、何かあったら、そういったサポートをしてくれるというのがあるのはいいですね。

○村田先生：この病院では対応できない患者さんでも、後方支援があるということですね。ヘリポートも、前は病院の芝生の空き地にとまっていたのですが、雨が降ってぬかるみ、大変な為、町で予算をつけてもらい、コンクリートできちんとしたヘリポートをつくりました。完成してから、今日第一号の患者さんでした。

○玉井先生：連休のため、観光客など多く、様々な医療機関が、対応が少し難しい時期ですが、先ほど、何名か急患がいましたね。

○村田先生：今、久米島でおもしろいことが始まろうとしています。それは「久米島食物アレルギー対応旅行」というものです。食物アレルギーの子ども達は、外食が危険なので家族旅行が出来ない、滞在先で出される食物にアレルギーが出ると、重症アナフィラキシーショックが起こる可能性があるわけです。それを島全体の取り組みとして、そういう家族を受け入れて、食事の頻度の高い十品目の抗原になる食材を除き、きちんと作る。しかも、何かあった場合には、久米島病院が全面的にバックアップをしています。それに加えて子供達が喜ぶ島ならではの体験型ツアーも用意されています。

実は、去年、そのテストケースをやり終えたところで、成功したので、これを本格的に商品化して全国展開してやっていこうという動きが出ています。

○玉井先生：新しい試みですね。全国にどんどん宣伝していくと、島全体の活性化につながっていきますね。新しい試みを改革されていって、よりいいものを是非作られていってください。

先生は、急患・救急を扱うのに慣れていらっしゃる先生ですから、非常に心強いと思います。今後のご活躍を期待しています。

インタビューアー：広報委員 玉井 修



原稿募集！

「若手コーナー」(1,500字程度)の原稿を随時、募集いたします。開業願未記、今後の進路を決める先生方へのアドバイス等についてご寄稿下さい。